

27PB-am127

ジャノヒゲ（広義）の選抜個体と麦門冬の形態について

○福田 達男¹, 長野 祐哉¹, 石川 寛¹ (¹北里大薬)

【目的】 演者らはこれまで麦門冬の基原植物ジャノヒゲ *Ophiopogon japonicus* (広義) を生活型と根茎の形態から 3 タイプに分け, それらは狭義の意味でのジャノヒゲ, ナガバジャノヒゲ *O. ohwii*, 杭麦冬 *O. chekiangensis* に相当し, 根の膨大部の大きさに差があることを報告してきた^{1,2)}. 本研究ではこれら 3 種から栽培に適した個体を選抜し麦門冬を作り, 市場品と比較した.

【材料及び方法】 2010 年 5 月から 2012 年 5 月にかけてジャノヒゲ 13 系統, ナガバジャノヒゲ 16 系統, 抗麦冬 18 系統を栽培し, 1 個体当たりの膨大部の数, 総重量及び大型膨大部 20 個重を測定し選抜を行った. 2012 年 5 月から 2013 年 5 月及び 2013 年 5 月から 2014 年 5 月にかけて選抜個体を栽培し麦門冬を作り, 市場品と形態的な比較を行った. なお, 栽培方法は前報と同様に行い, 膨大部は洗浄後日干し乾燥し麦門冬とした^{1,2)}.

【結果及び考察】 2010 年 5 月の収穫では, ジャノヒゲは多数の膨大部を形成したが小型であったのに対し, ナガバジャノヒゲは大型の膨大部を形成する系統が認められ, 抗麦冬は膨大部の形成数は少ないが全ての系統で大型の膨大部を形成し, ナガバジャノヒゲ 3 系統と抗麦冬 3 系統を選抜した. 選抜個体の 2013 年及び 2014 年 5 月収穫では, ナガバジャノヒゲは根に鈴なりに膨大部を多数形成したのに対し, 抗麦冬は根の途中に大型の膨大部を形成し, 2 種とも 2 年栽培より収穫量を増やした. 麦門冬は紡錘形で淡黄色から淡褐色で, 抗麦冬を基原とするものは白味がかかり, 重さ 0.7g, 長さ 3.5cm, 径 0.7cm に達し中国産に形態が似るものがあった.

1)日本生薬学会第 58 回年会,2011, 2)日本生薬学会第 60 回年会,2013.